

こども環境会議主催のシンポジウム「こどもの本音 大人の言い分～みんなで福島の今・そして未来を考えよう～」(2011年9月10日)の参加報告

※こども環境会議 <http://www.kodomokankyokaigi.jp/>

◆シンポジウム概要=====

◇日時・場所

- ・日時：2011年9月10日(土) 13:30～17:00 (13:00 開場)
- ・場所：東京ウイメンズプラザ プラザホール

◇シンポジウムの構成

- ・第1部 「こども環境会議」の子どもたちが、福島の子どもたちを招待した今年のキャンプの様子やそこで真剣に話し合った「日本の未来を考える子ども達の意見」の報告会
- ・第2部 上田紀行さん(文化人類学者)、橋本ちあきさん(マクロビオテック食学家)、志村季世恵さん(こども環境会議代表)の対談

=====

特に印象に残った発言について報告する。

◆福島の子どものことば

- ・10分も遊んだら休んで、の繰り返し。1日まとめても1時間しか外で遊べないからサッカーも野球もできない。
- ・福島を見捨てないで、福島が孤立してしまう。
- ・町内放送で毎日、線量の数値が報告されるけど、その数値は安全なの？危険なの？
- ・外で遊んではいけない理由を、「しょうがないからがまんして」って片づけないで。なんでだめなのか、もっと具体的に説明してください。

◆東京の子どものことば

- ・一度もグラウンドにおりなかった子がいた。土や草に放射線がたまっているから、降りられないという。
- ・「必ず会いに行くよ」というと福島の子どもから「今の福島には来ないほうがいいよ」と言われた。
- ・福島の子に不安や悲しい思いをさせるなら、私はエアコンも好きなモノも我慢する。
- ・福島の子どもは、キャンプから帰るとき、重たいのに、家族に安全な水を飲ませたいとペットボトルに家族の分まで水を入れて持って帰った。
- ・3月15日の水素爆発があったとき、日本では音が消されて報道されていたが、海外では音も伝えられた。なぜなのか。
- ・悪いことは伝えないと国民をかえって危険な状況に置くことになる。もし国民が受け止められないというなら教育をしてほしい。

◆対談から

- ・私たちの世代が起こしたことという後悔。被害は他の世代に。2、3代先を考える必要。
- ・正しく怖がり、不安を増幅させるのではなく受け止めて暮らしたい。
- ・使い捨ての文化になっている。一人ひとりを尊重するのが民主主義。
- ・大人も子どもも自分で判断したいのに、できないのがくやしい。

2011年9月15日